

全国低層住宅労務安全協議会 じゅうたく小町 をめりレーメッセージ

# 私達は「じゅうたく小町」です



## 住宅現場からのメッセージ

②

全国低層住宅労務安全協議会 じゅうたく小町

環境班リーダー

所属/

日野興業(株)

営業企画部営業企画課



熊本 好美

2016年に発足したじゅうたく小町はこれまで多くの取組みを行ってきました。今回はその中から、トイレ環境改善に関する事例をご紹介します。

発足当初、正確には発足以前から私たちはまず現場のトイレの改善に取り組みました。じゅうたく小町の母体である全国低層住宅労務安全協議会(以下低住協)は、2015(平成27)年度「もっと女性が活躍できる建設業 地域共同推進事業」に応募し採用されました。これは国土交通省が創設した建設業で働く女性を応援するための事業であり、低住協は女性現場管理者担当現場10カ所に女性専用仮設トイレを設置する取組みを提案、実施しました。

住宅現場の仮設トイレは和式・汲取式・男女兼用が大半を占め、事前ヒアリングの結果では女性現場管理者は現場のトイレを使わずコンビニのトイレを借りるケースがほとんどという結果に。これはトイレに行くために時間をかけてしまうことになり生産性低下にもつながります。現場に長時間滞在する技能者には女性も増えており、より良い労働環境の実現のた

めにはトイレの改善は急務でした。

導入した仮設トイレは、洋式便器・しっかり掛かるロック・ピクトサイン等を備え、男性用トイレから出入口が見えにくい場所に設

置するなど、従来のトイレと比較にならない安心感と清潔さで好評でした(写真1・2=女性専用仮設トイレ)。

しかし同時に課題も浮き彫りになったのです。首都圏の現場は敷地に余裕が無いケースも多く男女別トイレを設置しづらい、女性用はうれしいが自分だけ、もしくは数人しか使わないケースが多く男性に対し気が引けてしまうなどの意見がありました。

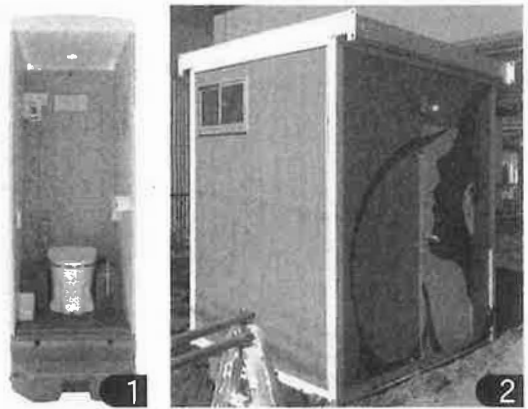
しかし、男性からは「こんなに良いトイレがあるなら自分たちも使いたい」とこれまで埋もれていた声が聞こえてきたのです。

そこで、正式発足後のじゅうたく小町では、デモ設置の結果を踏まえ、住宅現場で男女共に快適に働くにはどんなトイレを設置すれば良いかを考えました。国土交通省「快適トイレ」等

を参考に住宅現場向け仮設トイレ「じゅうたく小町仕様」を提案。これは後に低住協における「快適トイレ推進プロジェクト」発足のきっかけとなり、「住宅版快適トイレ」(図1)と名前を変えて首都圏において少しずつではありますが「住宅版快適トイレ」が広がっています。

読者の皆さんが働く場所のトイレが和式・汲取式・男女兼用であったら、それは必ずしも動きやすい環境とは言えないかもしれませんが。私たちはものづくりの喜び

## 住宅現場のトイレ改善



住宅版快適トイレ仕様(図1)

住宅版快適トイレおもな装備			
① 洋式便器	④ 小物掛けフック	⑤ 小物置場等	⑧ 鏡または鏡付きの手洗器等
② 便座除菌クリーナー	⑥ 薬剤による臭い対策(簡易水洗)	⑦ 擬音装置	⑨ ヘルメットホルダー
③ 容易に開かない施錠機能等	※推奨しているもの…標準化はしていないが付いていればさらに良いもの		

を味わえる住宅業界が魅力的な業界として若者たちに選んでもらえるよう、何より自分や仲間が快適に働き続けられるよう、環境改善に取り組んでいきます。



タイムスクン

次は大阪府在住の三幣涼子さんです。お楽しみに!

全国低層住宅労務安全協議会

じゅうたく小町

ホームページ

www.j-komachi.com/

